

平成9年度県民芸術劇場君津公演

ニューフィルハーモニー
オーケストラ千葉演奏会

The New Philharmony Orchestra Chiba



平成9年11月9日(日) P.M.2:00

君津市民文化ホール

- 主催／県民芸術劇場君津市実行委員会・千葉県教育委員会・君津市教育委員会
- 共催／(財)君津市民文化ホール

PROGRAM



歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲
グリンカ



ピアノ協奏曲第2番ハ短調
ラフマニノフ



交響曲第2番ニ長調
ブラームス



曲 目 解 説

歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲

■グリムカ

イワン・スサーニンに続くグリムカ第四作の歌劇序曲で、彼の管弦楽曲の中でももっとも演奏される曲である。古代ロシアのキエフ公園での物語。悪魔に連れ去られた公の愛娘リュドミラを、三人の求婚者たちが競って救いに出かけ、最後はルスランが彼女を救出して結ばれる。という楽しい

ストーリーである。序曲はプレストの急速なテンポで運ばれる活気にあふれ華麗な音楽で、総奏での輝かしい始まりから全速で疾走する主題が出され、やがて幅広くおおらかな第二主題へとつながる。以下これらの主題を扱った展開部、型どおりの再現を経て、華やかなコーダで結ぶソナタ形式の作品である。

ピアノ協奏曲第二番ハ短調

■ラフマニノフ

第一楽章、モデラート、ハ短調は、重々しい鐘の音を模したようなピアノの和音による導入ではじまる。続いてオーケストラで示される第一主題は、いかにもラフマニノフらしい暗い情熱に満ちたうねるような旋律。第二主題はピアノで示される甘美な感傷的な、これまたもっともラフマニノフ的な旋律。この二つの主題にもとづいてソナタ形式で書かれている。ラフマニノフは他の二つの楽章を書きおえてから、この楽章を作曲したというのが、構成、内容とも他に抜きんできた楽章である。

第二楽章、アダージョ、ソステヌート、ホ長調は、ラフ

マニノフ特有の抒情性がすばらしく發揮された甘美きわまりない音楽である。弱音器をつけた弦の柔らかな響き、木管楽器の奏するメロディとピアノのアルペジオとの間の微妙な関係が、聴く者の感情をくすぐる。少しテンポを速めた中間部はほとんどピアノのひとり舞台で、オーケストラがうつくしい彩りをそえる。

第三楽章、アレグロ、スケルツァンド、ハ長調は、力強いスケルツォ風の主題と纏綿とした情緒の優美な主題という鋭い対比をなす二つが交互に現れながら進行する一種のロンド・ソナタ形式といえる。とくに後者の旋律の美しさは格別で、アメリカではこれに歌詞をつけてポピュラー音楽として歌われたほどだ。

交響曲第2番二長調

■ブラームス

第一楽章、アレグロ、ノン・トロッポ、ソナタ形式を堅実に守った整った姿が印象的。

低音弦の上に直ちに主題が管楽器によって奏されるが、その最初のチェロとバスによる三つの音が、この交響曲全体をまとめる動機の役目をしている。曲は明るくさわやかに進行し、温かな感情をたたえた第二主題が加わって、さらに自然を美しく歌う。この楽章の結びは、壮麗な夕日を見るようで、その静かに終わる響きは聴き手の心を捕まえる。

第二楽章、ロ長調、アンダージョ・ノン・トロッポ、明るい第一楽章と、軽快な第三楽章に挟まれたこの楽章は、

いくぶんの憂いを含んだ寂しい感情が漂う。低音弦の沈み込むような旋律と、木管の対位旋律が美しい対比を作り、やがてホルンの長い伸びやかな調べが自然を歌いあげる。

第三楽章、ト長調、愛らしい調べにあふれたこの楽章は、オーボエの素朴な旋律と、速度を速めた快いリズムの旋律とが見事な綾を織る。第四楽章、アレグロ、コン・スベールリト、ニ長調に戻り、曲は明るく陽気さを加える。ざわめきのような第一主題と、喜びを表す広大な第二主題によってソナタ形式が組み立てられ、力強いコーダによって壮麗に全曲を結ぶ。